

朝酌川流域の川づくりに関するアンケートの結果について

(問-1) アンケートの配布数・回答数、性別・年齢

流域各世帯3枚配布、封書により回収

配布世帯数	回収枚数
21,976	2,654

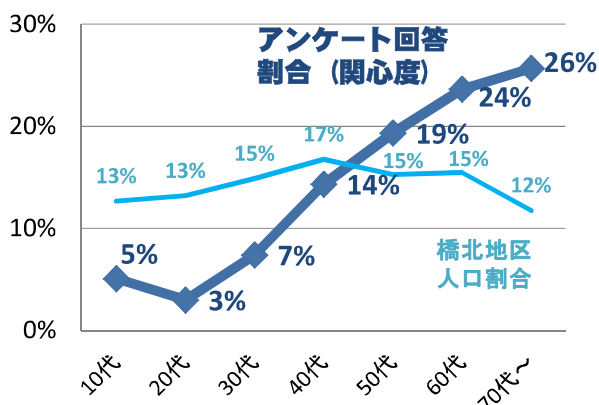
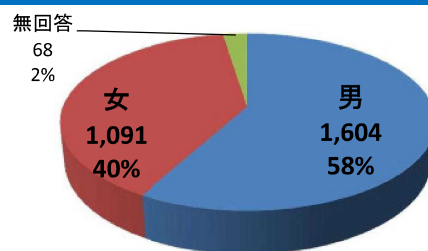
回収率 **12.1%**
(H22当初時 **3.4%**)

学校名	回収枚数
松江北校	40
松江高専	39
松江女子校	30
合計	109

回収率 **100%**

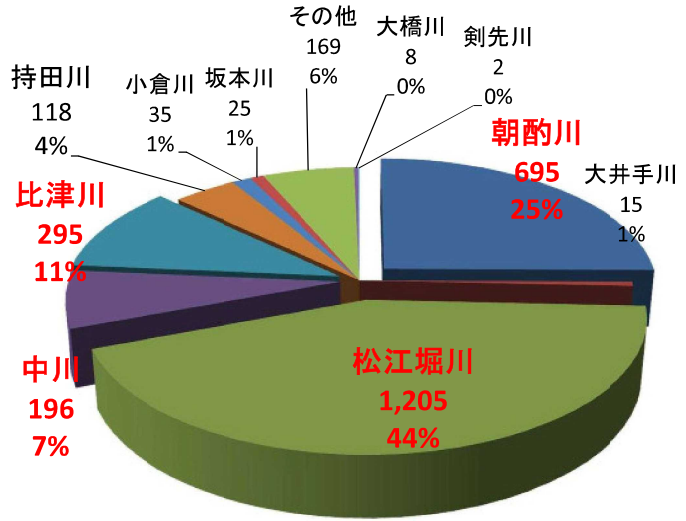
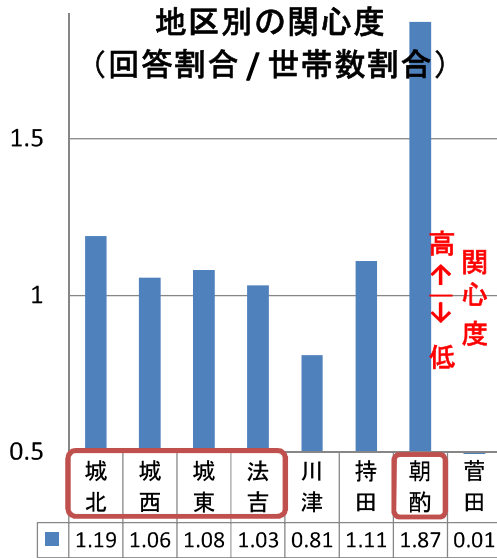
合計
2,763

回収率 **12.4%**



- H22策定時、近年の他河川と比べても数・率ともが高く、非常に関心が高い。
- 回答者の年代の約7割が50代以上、約半数が60代以上。⇒高齢世代ほど高い関心

(問-1) 地区名 ・ (問-2) 自宅付近の川・生活で関わりある川

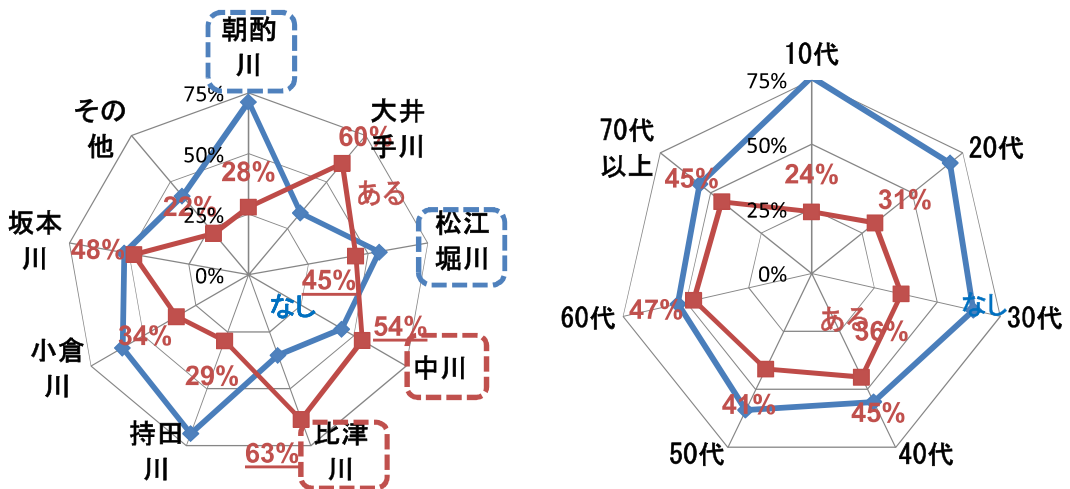


- 地区別では、朝酌、城北・西・東、法吉で関心が高く、今回の施工場所とも一致。
- 回答順に松江堀川、朝酌川、比津川、中川で、主要4河川が回答者の9割近く。
- 今回の整備河川と一致し、高い関心がうかがえる。

(問-3) 大雨の時に危険を感じた事がある河川

治水

1 危険を感じたことは ない	1,543	56%
2 危険を感じたことが ある	1,134	41%
無回答	86	3%
計	2,763	



- 危険を感じた事が「ある」は全体で4割だが、比津川・中川は「なし」を上回り、整備の必要性と一致。
- 松江堀川は「なし」の割合が多いものの、「ある」の割合は回答全体に比べて高い。
- 朝酌川は「なし」が7割以上を占め、過去の河川改修事業の効果と推測できる。
- 全体では高齢世代に「ある」の割合が高くなるが10代・20代でも3割前後で「ある」と回答。

(問-4) 大雨の時に危険を感じた理由 (問-3で危険を感じた事「あり」回答)

治水

※%表示は『複数回答者数/回答数』

複数回答数の集計	合計(全回答)	朝酌川	松江堀川	中川	比津川
1 大雨のたびに川の水があふれる	491 30%	42 22%	194 36%	60 55%	156 83%
2 川の幅が狭い	319 20%	24 12%	98 18%	64 59%	92 49%
3 川の中に土がたまっている	265 16%	55 28%	80 15%	34 31%	54 29%
4 川の中に草や木が茂っている	267 16%	68 35%	70 13%	39 36%	36 19%
5 堤防が低い	240 15%	41 21%	94 18%	24 22%	65 35%
6 護岸(石垣やブロック)がくずれそう	141 9%	24 12%	53 10%	13 12%	23 12%
7 脱出・救出のための昇降路が少ない	66 4%	12 6%	29 5%	8 7%	8 4%
8 過去に浸水被害にあったことがある	430 26%	54 28%	249 46%	44 40%	54 29%
9 その他	157 10%	33 17%	80 15%	9 8%	14 7%
全体	2,376 209%	353 183%	947 177%	295 271%	502 268%

- 「大雨のたびに川があふれる」・「川の幅が狭い」が比津川、中川で多く、問-3「危険あり」と同傾向。
- 松江堀川で「過去に浸水被害にあったことがある」を理由とした回答が顕著。
- 主要4河川で「堤防が低い」、「護岸がくずれそう」の回答は少数。 ⇒整備計画と一致
- 「土がたまっている」・「草や木が茂っている」が朝酌川で多く、維持管理への要望が高い。

(問-5:自由意見) 朝酌川流域の河川工事 について

治水

項目(上位10集約)	問5合計	批判、疑問	要望	指摘、提案
意見全体	923	156	254	164
整備計画内容への賛同	147	—	—	—
環境、景観、利用への配慮	109	19	71	19
治水対策の推進	84	24	51	9
工期、施工計画	81	54	18	9
内水対策	60	6	21	33
堤防、護岸の整備	42	3	25	14
整備計画の内容	41	25	8	8
河道掘削・樹木伐採	35	0	19	16
河道拡幅、調節池や支川等の整備	32	0	16	16
中海・宍道湖との関係	24	10	2	12

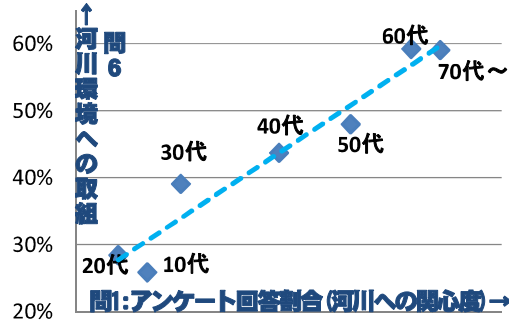
単語(上位20)	治水
全体意見数	830
洪水、水害、浸水	159
30年	50
早急、早期、早く	47
堀川	45
護岸	44
宍道湖	44
比津川	42
松江	40
大雨、ゲリラ豪雨	40
堤防	38
朝酌川	36
整備、工事	35
自然	28
災害	23
中川	19
観光	16
北田川	16
市民、住民	15
放水路	14
四十間堀川	14

- 賛同意見が最多で、「環境、景観、利用への配慮」には「要望」意見が多く「批判・疑問」は少ない。 ⇒松江市街地への景観に配慮した整備内容、中川・比津川の方角性の妥当性
- 「比津川」を含む意見が「中川」を上回り、「堀川」と同程度。 ⇒関心・整備の必要性の高さ
- 「工期・施工計画」に対し『整備期間30年が長い』批判・疑問、「治水対策の推進」への意見が多い。

(問-6) 河川環境を保全、改善するための「現在の取組」

環境

河川環境	回答者数	取組(人数)		取組率
		あり	なし	
回答者計	2,377	1,189	1,188	49.9%
10代	116	30	86	25.9%
20代	81	23	58	28.4%
30代	197	77	120	39.1%
40代	366	160	206	43.7%
50代	492	236	256	48.0%
60代	574	340	234	59.2%
70~	542	320	222	59.0%



取組	人数	割合
草刈り	569	48%
ゴミ拾い	466	39%
廃食用油の適切処理	476	40%
不法投棄対策	44	4%
外来生物等の防除	20	2%
植樹・花植	96	8%
虫など動植物保全活動	58	5%
環境学習・観察会	42	4%
動植物の調査	17	1%
水質調査	21	2%
その他	117	10%
計	1926	162%

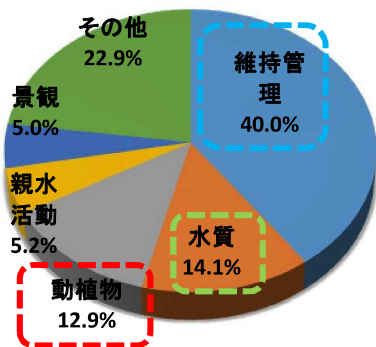
年代	アンケート回答割合(河川への関心度)			
	草刈り	ゴミ拾い	廃食用油の処理	全項目数
10代	10 (33%)	12 (40%)	6 (20%)	38 (127%)
20代	9 (39%)	8 (35%)	11 (48%)	40 (174%)
30代	22 (29%)	25 (32%)	42 (55%)	108 (140%)
40代	58 (36%)	54 (34%)	75 (47%)	227 (142%)
50代	100 (42%)	83 (35%)	126 (53%)	362 (153%)
60代	191 (56%)	153 (45%)	117 (34%)	584 (172%)
70~	177 (55%)	130 (41%)	99 (31%)	564 (176%)
全体	569 (48%)	466 (39%)	476 (40%)	1926 (162%)

- 取組率は全体で約5割で、若い世代ほど割合が低くなる。
 - 草刈り・ゴミ拾い・廃食用油処理の割合が40%前後と高い。(身近な取組が多い)
 - 河川環境の取組については、河川毎の相違は見られなかった。
- ⇒回答者の年代割合と相関し、身近な環境保全への取組と河川への関心へと結びついている。

(問-7:自由意見) 河川環境の保全、改善のため「今後新たに取組みたいこと」

環境

今後の新たな取組【分類】



再掲: 問6 現在の取組		
草刈り	567	48%
ゴミ拾い	465	39%
廃食用油処理	476	40%
不法投棄対策	44	4%
外来生物等の防除	20	2%
植樹・花植	96	8%
虫など動植物保全	58	5%
環境学習・観察会	42	4%
動植物の調査	17	1%
水質調査	21	2%
その他	117	10%
計	1923	162%

単語(上位20)	環境取組
全体意見数	386
ゴミ	73
草刈、除草	53
ゴミ拾い	52
水質	40
整備、工事	22
市民、住民	14
ホタル	14
朝酌川	13
行政	13
堀川	10
松江	8
自然	8
外来種、外来生物	8
ヌートリア	8
堤防	5
意識	5
洪水、水害、浸水	4
護岸	4
観光	4
大橋川	4

- 草刈りやゴミ拾いといった、日常の維持管理が「現在/今後の取組」ともに多い。
 - 一方で、現在の取組に比べ、今後は「水質」・「動植物」の回答割合が大きい。
 - 「水質」について、現在の取組(問6)に多い「廃油・廃食用油」は今後の取組で少なく、新たな取組を志向。
- ⇒これらの新たな需要に応える施策の必要性を示している。

(問-8:自由意見) 朝酌川流域の河川環境についての意見

環境

項目		合計	要望	指摘、提案
水質	(水質)全体	525	159	133
	悪い(現状認識)	166	—	—
	水質改善、保全	148	115	33
	良好(現状認識)	67	—	—
	汚濁原因の追究、除去	47	19	28
	住民への啓蒙、住民参加	39	7	32
	流水の維持、水位調整	30	8	22
	下水処理	18	2	16
	水質調査、監視	10	8	2
景観	(景観)全体	570	137	269
	良好な景観の維持、保全	181	61	120
	現状認識(良好)	80	—	—
	良好な景観の創出、再生	77	19	58
	景観と調和した利用	40	10	30
	景観に配慮した施設整備	39	19	20
	調和、統一した景観づくり	34	20	14
	河川周辺の景観保全	32	8	24
	現状認識(不良)	17	—	—
動植物	(動植物)全体	622	—	—
	外来種対策	229	—	—
	水生生物	86	—	—
	植物	65	—	—
	鳥類	25	—	—

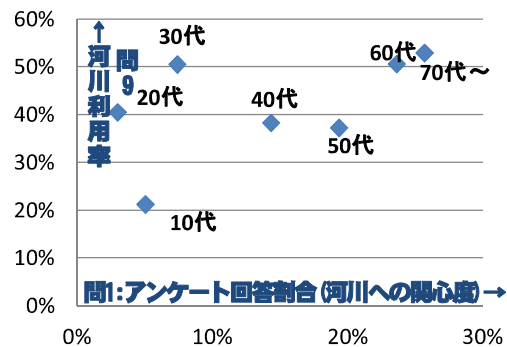
単語(上位20)	河川環境
全体意見数	1485
水質	193
外来種、外来生物	146
整備、工事	139
堀川	104
松江	84
市民、住民	80
自然	80
ヌートリア	77
ゴミ	72
草刈、除草	58
宍道湖	57
観光	56
朝酌川	48
堤防	46
ホタル	44
管理	26
早急、早期、早く	25
護岸	21
行政	17
水の都	17

- 『水質』は「悪い」が「良い」を上回り、次いで「水質保全・改善」が多く、一層の水質浄化ニーズが顕著。
- 『景観』は、「良好な景観の維持、保全」意見や、良好な現状認識が多い。⇒河川整備での景観配慮
- 『動植物』で外来生物への意見が際立っているが、内訳は動物・魚類への意見が多い。⇒河川管理だけで解決しない課題が多く、関係機関との一層の連携が必要

(問-9) 普段の河川利用について

利用

河川利用	回答者数	利用(人数)		利用率
		あり	なし	
回答者計	2,353	1,049	1,304	
朝酌川	606	298	308	49.2%
松江堀川	1,064	519	545	48.8%
中川	171	59	112	34.5%
比津川	262	81	181	30.9%



複数利用回答の集計	回答者計		朝酌川		松江堀川		中川		比津川	
遊び場	112	11%	36	12%	53	10%	4	7%	6	7%
散歩・サイクリング	679	65%	213	71%	338	65%	44	75%	43	53%
休憩の場	169	16%	49	16%	101	19%	4	7%	9	11%
自然観察	280	27%	48	16%	150	29%	20	34%	35	43%
お祭り・イベント	78	7%	9	3%	53	10%	4	7%	5	6%
その他	131	12%	40	13%	44	8%	7	12%	17	21%
全体	1,449	138%	395	133%	739	142%	83	141%	115	142%

- 「利用あり」が全体で45%。比津川・中川では割合が低く、河川の改修割合と同じ傾向が見られた。
- 散歩・サイクリング、自然観察での利用が多く、お祭り・イベントの場、遊び場としての利用は少ない。
- 河川環境への取組(問-6)ほど、年代別での傾向の違いは見られない。⇒河川改修により、河川利用の増加につながる効果が傾向として見られた。

(問-10:自由意見) 朝酌川流域の今後の河川利用について

利用

項目 (上位10集約)	合計	要望	指摘、提案
合計	620	155	282
水面利用	119	22	97
高水敷、堤防、河岸等の利用	100	32	68
水質、水流の改善	56	30	26
河川利用の理念	56	33	23
良好な河川環境の保全、創出	51	22	29
整備計画内容への賛同	23		
治水対策との調和	20	9	11
イベント、祭り等の開催	12	0	12
整備計画内容へ批判・疑問	12		
広報、啓蒙、学習利用	9	3	6

単語(上位20)	河川利用
全体意見数	494
堀川	84
整備、工事	75
松江	43
観光	39
水質	38
市民、住民	34
自然	27
宍道湖	21
朝酌川	17
水の都	16
護岸	13
堤防	12
大橋川	10
管理	9
大雨、ゲリラ豪雨	8
ゴミ	6
草刈、除草	6
洪水、水害、浸水	6
意識	5
行政	4

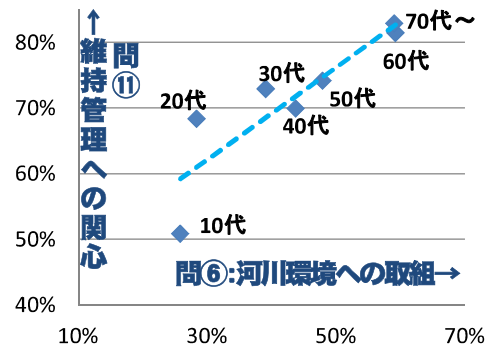
問9 再掲	普段の利用	利用回答複数全体
遊び場	112	11%
散歩・サイクリング	679	65%
休憩の場	169	16%
自然観察	280	27%
お祭り・イベント	78	7%
その他	131	12%
全体	2,753	138%

- 「水面利用」の意見が「高水敷、堤防、河岸等の利用」を上回り最多で、高い関心を示した。
- 「堀川」「観光」「水質」が特徴的な回答で、(問8)水質改善への意見の多さとも一致。
- ⇒ 普段の利用(問9)では散歩等が圧倒的に多く、潜在的なニーズとして今後の課題が明確になった。
- 「河川利用の理念」への要望項目も多く、上記と「住民」双方に配慮した設計・施工が今後望まれる。

(問-11) 河川の維持管理上、日頃から気になっていること

維持管理

維持管理	回答者数	気になる事 (人数)		「あり」率
		あり	なし	
回答者計	2,250	1,707	543	76%
朝酌川	574	462	112	80%
松江堀川	998	689	309	69%
中川	172	139	33	81%
比津川	253	206	47	81%



複数回答数の集計	回答者計	朝酌川	松江堀川	中川	比津川
草が多い	813 48%	310 67%	198 29%	83 60%	82 40%
木が多い	180 11%	84 18%	44 6%	5 4%	12 6%
土がたまっている	504 30%	105 23%	180 26%	58 42%	91 44%
ゴミが多い	553 32%	160 35%	228 33%	41 29%	77 37%
水草が多い	434 25%	76 16%	235 34%	27 19%	54 26%
護岸が崩れそう	229 13%	57 12%	74 11%	18 13%	39 19%
その他	288 17%	55 12%	165 24%	10 7%	34 17%
全体	3,001 176%	847 183%	1,124 163%	242 174%	379 189%

- ありの率が76%で、他設問に比べ高い関心を示す。高い年代ほど関心は高まる。
- ⇒ 問6「河川環境の取組」との相関があり、相互に関連したな取組が必要と考えられる。
- 松江堀川での「水草が多い」回答割合が顕著。(問8)水質への回答傾向と合致している。
- ⇒ 河川毎に回答の特徴が異なっており、それぞれ異なる対策が必要。

(問-12: 自由意見) 朝酌川流域の維持管理について

維持管理

項目	合計	要望	指摘、提案
合計	537	220	224
河川や施設の維持管理	89	61	28
清掃、除草、樹木の伐採	75	28	47
地域との連携、啓蒙	70	10	60
外来種対策、生態系の保全	60	35	25
整備計画内容への賛同	47	-	-
批判、疑問	46	-	-
河川利用景観への配慮	30	22	8
堆砂の除去等、河積の確保	26	15	11
河川施設の老朽化対策	26	18	8
水質改善、流水の維持	25	12	13
河川巡視、点検の強化	14	10	4
水路、小支川の維持管理	9	3	6
流域管理	9	2	7
情報提供	8	2	6
違法駐車や不法繋留への対処	3	2	1
その他	0	-	-

単語(上位20)	維持管理
全体意見数	568
管理	100
市民、住民	61
草刈、除草	45
外来種、外来生物	45
ゴミ	34
整備、工事	30
行政	23
護岸	22
洪水、水害、浸水	21
堀川	20
大雨、ゲリラ豪雨	18
朝酌川	17
早急、早期、早く	17
水質	15
松江	14
自然	9
堤防	9
観光	8
意識	8
ヌートリア	7

- 「河川や施設の維持管理」・「清掃、除草、樹木の伐採」が多く、治水上の管理への意見が多数。
⇒一方で「地域との連携、啓蒙」への指摘も多く、問13以降の防災とも関連した重要な課題。
- 「外来生物」の意見がある他方、「老朽化対策」・「点検強化」の意見は少数にとどまった。
⇒河川の新たな課題・施策についての周知や取組については課題がある結果。

(問-13) 防災・災害情報を、今後どのような方法で入手できたらよいか

防災

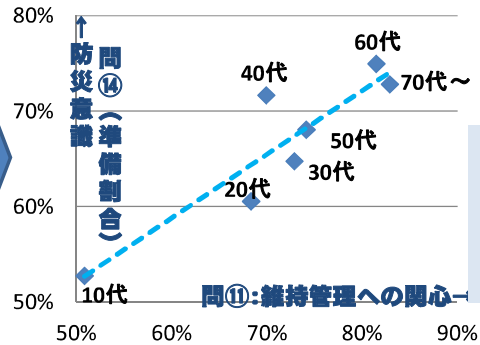
	全体合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
携帯電話	1,346 52%	71% 71%	75% 75%	73% 73%	70% 70%	64% 64%	47% 47%	26%
固定電話	223 9%	8% 8%	4% 4%	2% 2%	3% 3%	3% 3%	9% 9%	19%
FAX	74 3%	3% 3%	1% 1%	1% 1%	1% 1%	1% 1%	4% 4%	5%
インターネット	562 22%	41% 41%	60% 60%	39% 39%	29% 29%	26% 26%	16% 16%	6%
地上波テレビ	1,054 41%	45% 45%	46% 46%	37% 37%	44% 44%	40% 40%	39% 39%	42%
ケーブルテレビ	677 26%	13% 13%	19% 19%	16% 16%	24% 24%	27% 27%	29% 29%	31%
ラジオ	569 22%	24% 24%	19% 19%	13% 13%	18% 18%	20% 20%	24% 24%	28%
広報車	857 33%	12% 12%	18% 18%	28% 28%	27% 27%	28% 28%	36% 36%	47%
防災行政無線	421 16%	14% 14%	18% 18%	18% 18%	15% 15%	16% 16%	20% 20%	14%
サイレン	620 24%	22% 22%	25% 25%	29% 29%	22% 22%	23% 23%	25% 25%	24%
屋外スピーカー	847 33%	26% 26%	26% 26%	38% 38%	36% 36%	34% 34%	33% 33%	31%
掲示板・電光掲示板	105 4%	9% 9%	10% 10%	6% 6%	6% 6%	4% 4%	3% 3%	2%
住民同士の声かけ	496 19%	17% 17%	16% 16%	13% 13%	9% 9%	12% 12%	21% 21%	32%
自治会	447 17%	7% 7%	6% 6%	9% 9%	10% 10%	12% 12%	20% 20%	30%
自主防災組織	178 7%	6% 6%	1% 1%	4% 4%	4% 4%	4% 4%	8% 8%	12%
消防署・消防団員	278 11%	10% 10%	5% 5%	9% 9%	9% 9%	7% 7%	10% 10%	17%
IT	2,205 86%	123% 123%	140% 140%	114% 114%	104% 104%	94% 94%	75% 75%	56%
メディア	2,300 90%	82% 82%	84% 84%	66% 66%	86% 86%	88% 88%	91% 91%	101%
行政	2,850 111%	83% 83%	96% 96%	119% 119%	106% 106%	104% 104%	117% 117%	118%
地域	1,399 54%	40% 40%	29% 29%	34% 34%	32% 32%	35% 35%	59% 59%	91%
全体	8,819 343%	328% 328%	350% 350%	335% 335%	330% 330%	323% 323%	344% 344%	371%

- 携帯電話が10代～60代で最も選択割合が多い。
- 行政主導の方法が多く、地域の自主的な取組へは課題がある。
- 世代間でITへの格差の課題がある一方で、メディアは全世代で高い割合があり連携強化が必要。
- ITの中でも携帯電話の選択が全世代で多く、今後のソフト対策の検討において重要。

(問-14) 災害の発生に備えた日頃の準備

防災

防災準備	回答者数	準備(人数)		準備の率
		あり	なし	
回答者計	2,544	1,786	758	70.2%
10代	127	67	60	52.8%
20代	76	46	30	60.5%
30代	190	123	67	64.7%
40代	381	273	108	71.7%
50代	513	349	164	68.0%
60代	607	455	152	75.0%
70~	640	466	174	72.8%



⇒相互の関連
問1 河川関心
問6 環境取組
問11 維持管理
問14 防災意識

複数回答数/準備あり	全体合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代~
避難場所	978 55%	45% 45%	59% 59%	54% 54%	47% 47%	55% 55%	58% 58%	58% 58%
危険箇所	504 28%	16% 16%	30% 30%	28% 28%	27% 27%	26% 26%	32% 32%	29% 29%
情報入手方法	310 17%	16% 16%	20% 20%	20% 20%	18% 18%	18% 18%	18% 18%	15% 15%
非常持出袋	895 50%	39% 39%	22% 22%	35% 35%	48% 48%	42% 42%	51% 51%	65% 65%
非常食	332 19%	30% 30%	20% 20%	22% 22%	24% 24%	18% 18%	17% 17%	15% 15%
家族との連絡方法	69 31%	33% 33%	41% 41%	34% 34%	31% 31%	36% 36%	31% 31%	26% 26%
計	3,647 204%	182% 182%	191% 191%	196% 196%	197% 197%	198% 198%	209% 209%	215% 215%

- 河川での相違は見られない。
- 「準備していない」が全体で3割で、高齢世代ほど防災への意識が高い傾向。
- ⇒ 日頃の防災準備は「河川への関心」「河川環境への取組」「維持管理への関心」と同傾向があり、これら相互に関心・取組を高める事が、防災意識向上につながる傾向がみえる。

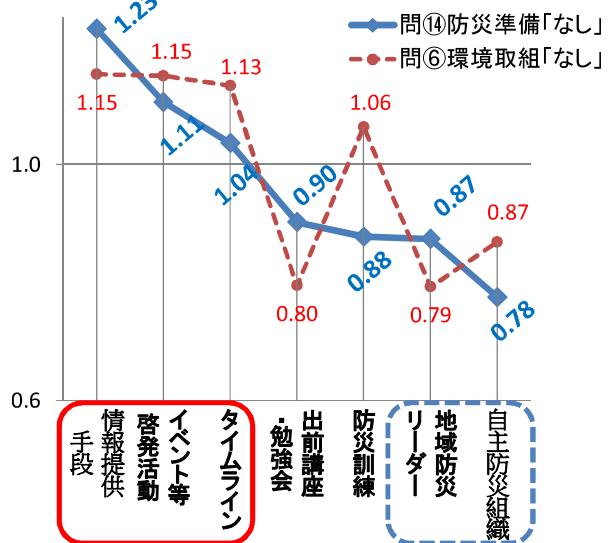
(問-15) 迅速な避難の体制・仕組み整備の為にどれが有効か

防災

複数回答数/準備あり	全体合計
全体	4,273 176%
出前講座や勉強会	513 21%
イベントなどの啓発活動	369 15%
情報提供手段の強化	1,211 50%
防災訓練	838 34%
自主防災組織の結成	420 17%
地域防災リーダーの育成	492 20%
タイムラインの作成	340 14%
分類での再集計	
【行政主導】	3,271 134%
【自主防災】	912 38%

防災「準備なし」回答者の選択傾向

(回答率割合: なし(%)/あり(%))



- 行政主導の方法が大部分で、地域の自主的な取組へは課題がある。(問-13と同様)
- 「情報提供手段の強化」が全体で約5割。
- 防災準備「なし」回答者も情報提供系の選択傾向が強く、自主防災への回答はさらに下回る傾向。⇒傾向は環境取組も同様 ⇒「情報提供」をきっかけに、相互に取組を進めることが重要

(問-16:自由意見) 防災について

防災

項目	合計	
意見全体	652	
情報伝達	伝達方法、体制	126
	伝達内容、時期	57
	災害弱者対策	45
	ハザードマップ	12
防災・避難体制	防災意識	114
	防災体制、組織	83
	避難体制、訓練	61
	災害弱者対策	31
河川整備	36	6%
その他	87	13%

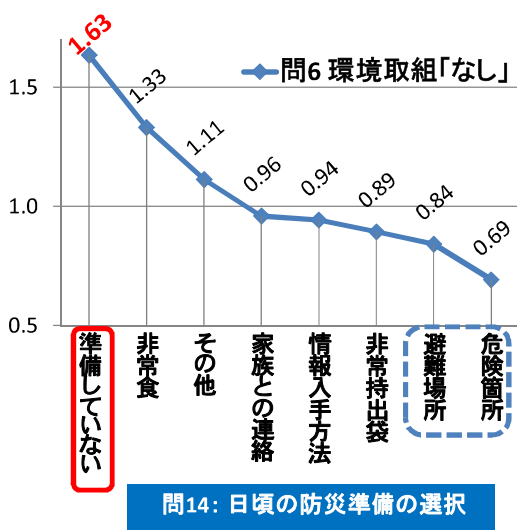
問13 再掲	IT	2,200	86%
	メディア	2,294	90%
	行政	2,840	111%
	地域	1,394	54%
	全体	8,792	343%

単語(上位20)	防災
全体意見数	1,135
防災	179
情報	149
災害	90
インターネット	89
洪水、水害、浸水	76
避難	65
市民、住民	64
高齢者、老人	63
意識	58
提供	50
訓練	48
行政	37
早急、早期、早く	32
整備、工事	28
松江	24
大雨、ゲリラ豪雨	17
自然	12
大橋川	8
宍道湖	6
管理	5

- 「情報」・「インターネット」の単語が多く、前問までの傾向と一致し、対策の重要性が確認できる。
- 一方、単語では「高齢者」:災害弱者対応、「意識」:意識向上への課題も多く読み取れる。
- 初回アンケートに比べ、「サイレン」・「ラジオ」のアナログ方法の回答も増加(問-13)
- 「行政」の単語は少なく問13と傾向が異なる。⇒多様な情報提供・高齢化対応の自主防災体制

(参考) 複数設問での選択傾向 : 新たな取組への考察

環境取組と防災への準備の関係
(回答率割合: 取組なし(%) / 取組あり(%))



今後関心を高めるために有効な手段
(回答率割合: なし(%) / あり(%))

今後入手したい防災情報 (↓問13回答)	問14防災準備なし	問6環境取組なし
携帯電話	1.16	1.20
インターネット	1.14	1.45
地上波テレビ	1.13	1.11
FAX	1.11	0.77
広報車	1.10	1.01
屋外スピーカー	1.03	1.07
自治会	0.95	0.70
サイレン	0.95	0.97
掲示板・電光掲示板	0.94	1.51
ラジオ	0.94	0.88
ケーブルテレビ	0.93	0.97
固定電話	0.91	0.66
消防署・消防団員	0.91	0.97
防災行政無線	0.88	0.91
その他	0.78	0.92
住民同士の声かけ	0.67	0.74
自主防災組織	0.53	0.52

- 環境への関心が低いと、防災意識も低い傾向。⇒草刈等ボランティア制度推進の必要性。
- 防災準備や環境取組をしていない回答者は、IT・携帯電話・メディア・音声の簡易な手段を選択。⇒これらのソフト対策の推進が新たな取組を増やす観点から、より効果的と思われる。

(問-17:自由意見) 設問以外の意見

項目	合計	自由意見比較	
		割合	他設問
合計	650	-	-
治水対策	137	37%	22%
河川環境	131	36%	45%
河川利用	62	17%	12%
防災・避難	36	10%	20%
アンケート内容	65		
河川行政	48		
理念、方向	42		
大橋川関係	20		
その他	109		

抜粋・再構

(自由意見の問)	文字数	割合
問 5 治水	40,135	16%
問 7 今後の環境取組	12,891	5%
問 8 環境(合計)	67,851	28%
問10 河川利用	22,279	9%
問12 維持管理	23,460	10%
問16 防災	36,394	15%
問17 朝酌川の川づくり	42,682	17%
自由意見全体	245,692	100%

単語(上位20)	全般
全体意見数	918
整備、工事	122
松江	78
市民、住民	74
洪水、水害、浸水	65
朝酌川	57
早急、早期、早く	42
大橋川	39
堀川	38
自然	34
宍道湖	31
大雨、ゲリラ豪雨	30
防災	26
災害	26
水の都	23
水質	22
堤防	21
管理	19
観光	19
比津川	18
行政	17

- 「治水対策」「河川環境」分野の回答、「整備、工事」「洪水、水害、浸水」「松江」「自然」の単語が多い。
⇒ 動植物や景観などの河川環境に配慮した総合的な治水対策が強く望まれている。
- 河川行政やアンケートの在り方に対する意見も多数あり、周知方法・住民対話視点での検討も必要。
⇒これまでの自由意見全体を踏まえ、今後の事業実施、河川行政以外の関係機関でも参考とするもの。